

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101827		
法人名	社会福祉法人 光塩会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	群馬県前橋市上増田町 1番地		
自己評価作成日	平成 28年 12月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年 1月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に張りを持って頂ける様、掃除・食事の準備・片付け・ゴミ捨て・お盆拭き・畑作業・洗濯たみ等の役割を持ち、ここでの生活を、今までの生活の延長としながら、楽しく過ごして頂ける様、支援している。利用者の趣味を取り入れたり、楽しめる活動を見つけ、その人らしく安心して過ごせる様、意見を尊重しながら、リハビリ体操・雑巾縫い・書道・華道・茶道・歌唱等の余暇活動に参加して頂いている。天気の良い日は、季節を感じながら、日向ぼっこや散歩をして、筋力低下の予防と、生活リズムを保っている。地域の行事にも参加し、地域の方々との交流を楽しめる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者さんが生活に張りを持って頂きたい」と考え、その実現に向け随所に総意・工夫をしている。生活歴を参考に、華道の先生をしていた方には花を生けるデモンストレーションの機会を設け、茶道の先生をしていた方にはお茶を点て皆に振る舞ってもらおう等、指導者として活躍されていた時代を尊重し、感慨を感じてもらえる日を設定している。又利用者の希望と能力に応じて、洗濯物をたたむ、お盆を拭く等、日々の生活の中で役割を発揮してもらえるよう支援している。外出の機会を多く設け、食材の買い出しには、3日に1度出かけており、その折に利用者も一緒に出かけ、買い物もでき、気分転換にもなっている。利用者の笑顔が見られ、気持ちよく暮らしている様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく、楽しく安心して暮らせるよう、関係性の維持、地域生活の継続を理念に入れケアをしている	事業所内に運営理念を提示して、利用者本位のケアになっているか、職員は日々確認をしている。利用者の気持ちを尊重し、食事の時間をずらしたり、居室で食べる等、柔軟に対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の新年会・納涼祭・敬老会・菊花展・文化祭・クリスマス会等に参加している。外出や散歩の時等に会った方には挨拶を交わし、顔なじみの関係が作れるようにしている	地域の公民館行事(新年会・敬老会・菊花展・文化祭等)へ参加し、文化祭に初めて作品を出展した。日常の散歩や外出、地域のボランティアの訪問もあり、活発な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させて頂き、グループホームの事や、認知症についての相談を受け、話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに、参加メンバーからの意見・要望を受け、サービスの向上に努めている。又、地域の情報を得て、余暇活動等に取り入れている。	年に6回、定期的で開催されている。利用者・家族・地域住民(自治会長・民生委員)・地域包括支援センター出席のもと、状況・活動報告等を行い、意見交換がされている。家族の参加が少ない。	家族の面会時や郵送でも案内しているが、引き続き、家族への参加を呼びかけ参加しやすい工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請の代行を行ったり、わからないことの確認等、電話や直接行って話を聞くようにして、協力関係が築ける様取り組んでいる。	ケアマネジャーが、介護保険の申請代行等で、行政の窓口に出向いている。管理者が疑問点や相談事等に直接出向くか、電話で市と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を理解し、拘束の無いケアを目指している。職員数の少ない夕方から朝にかけては、玄関の鍵を閉めている。	玄関はセンサーを付けて、日中は開錠されている。居間の掃き出し窓も開錠されている。身体拘束をしないケアについての内部・外部研修会に参加している。車椅子やベットの拘束もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、高齢者虐待防止法の理解を深める。そして、これにあてはまる時は、職員間であっても見過ごすことの無い様注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の理解を深め、それに該当するような質問を受けた時は、制度について話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時に、重要事項の説明や、ケアに関する考え方を説明し、利用者や家族等の理解・納得をえられるようにしている。又、随時質問を受ける旨も、話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話だけでなく、利用者は運営推進会議のメンバーに入っており、そこでも意見を抽出している。又、意見箱と用紙を玄関に置いている。	家族の面会時や電話等で意見等確認し、利用者からは生活の中で意見が出ている。家族から「布団だけでは寒いのでは」との指摘があり、暖かい毛布を用意してもらおう等、適宜対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションを図り、職員の意見・要望を聞く様心がけている。毎月開催の法人代表者会議に主任が出席して、職員の意見・要望を伝えている。	申し送り時やカンファレンス時に職員は担当の利用者等について、意見・要望を出し合っている。法人代表者会議で主任が、職員の意見・要望を伝え、勤務表作成時に、職員の希望休暇等が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場に来て、職員の勤務状態を把握し、向上心を持って働ける様配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、現場に来て、職員一人ひとりの力量を把握し、そのしよくばにあった研修に参加できる様、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連協の研修に参加したり、相互連携を取り合う事により、サービスが向上するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態や思いを良く聴き、受容、共感に努める。又、入所前に、本人に施設見学を勧め、施設の雰囲気を感じて頂き、安心して入所できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、今までのサービス状況等を、良く聴き、信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人、家族等の要望や状況を確認し、出来る限りその要望に応えられる様努め、場合により他のサービスに繋げ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野や、家事活動、日常の会話の中で、利用者に教えて頂く場面作りや、声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等の面会時に、利用者の近況・様子や職員の意見を伝え、家族等の協力を得ながら一緒に支えていくための関係を築ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問時等、継続的な交流が出来る様、働きかけ、良い関係が保てる様努めている。又、関連施設に訪問し、菜の花を退所された方との交流を維持している。	友人・家族等の訪問があり、家族の協力を得て美容院や一時帰宅、新聞を読み、化粧品等の買物、お墓参り、畑の手入れや収穫の時期のアドバイスをしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせる時間や、家事活動・役割活動を通じて、互いに良い関係が保てる様、職員は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方のところに、利用者と一緒に面会に出かけている。又、家族からの相談にも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中で、希望を伺ったり、言動や表情等から、意向を把握する様、努めている。	担当職員が、利用者との日常の会話や、しぐさ・表情から、意向を把握している。担当以外の職員も聞き取り、把握した内容を担当職員に伝え、家族等からは、面会時や電話等で確認をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人・家族等から、生活歴や暮らし方等を聞き取り、入所後も日々の関わりの中で、話を傾聴しながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方、生活リズムを理解し、日々の暮らしの中で、その人が出来る事・分かる事を見つける。その人の全体像が把握できる様努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等から、日々の関わりの中で意見を聴き、反映させている。日常ケアの中で気付き・意見を職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。	月に1回モニタリングを行い、担当職員が最近の状況を把握して介護計画の素案を提出し、担当者会議(職員・パート出席)を開催し、ケアマネジャーが介護計画を作成している。3ヶ月毎と変化がある時には、随時見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子・気付き・状態の変化等を、個別の介護記録に記入する。職員は、それを基に、情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族等のその時の状況に応じて、通院や買い物等、必要な場合は、柔軟に対応している。利用者個々の満足感を高められる様支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、自治会長等・民生委員に参加して頂き、意見交換をする機会を作っている。又、散歩や地域行事に参加することにより、地域資源を開拓している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を第一とし、かかりつけ医の継続支援をする。又は、事業所の協力医を選んで頂いている。	入所時にかかりつけ医を継続できることを説明し、ほぼ全員が協力医となっている。月に1度協力医の往診があり、訪問歯科も必要時に受診出来る。皮膚科等は、基本的に家族同行受診である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面での疑問や不安を感じた時は、協力病院の看護師や関連施設の看護師に協力を得ている。毎週金曜に訪問看護が来て、健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師・相談員・家族等と情報交換を密に行い、入院中の状態の把握や、退院後の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合について、入所時に家族等に説明している。状態の変化がある毎に、本人・家族等の意向を確認し、支援に繋がっている。又、医師・看護師・相談員と連携し、事業所の出来る事・出来ない事を話し合いながら取り組んでいる。	重度化等については重要事項説明書に記載があり、入居時に説明している。看取りは行わない方向だが、医師・管理者等が状態に応じて家族等に説明し、意向を確認しながら、関連施設や協力病院を紹介する等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、マニュアルを作成している。日常から、職員間で確認し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備の点検を定期的に行っている。消防署立ち合いの避難訓練を、年に二回行っている。地域協力員として、非常時は地域の方に協力をお願いしている。	平成28年10月消防署立ち合い、昼想定避難訓練を実施、29年3月末に総合訓練を行う予定である。水・缶詰を3日分程度備蓄している。	独自の自主訓練は記録の確認ができなかった。引き続き利用者と職員が避難技術を身につけるために自主訓練を継続し記録に残してほしい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりや、ミーティングの中で、利用者のプライバシーや尊厳を傷つけないように、職員同士でお互いが注意し合っている。	呼称は「さん」付けにしているが、事前に確認を行っている。トイレや入浴時の声かけ、利用者同士の相性等では、本人の尊厳を傷つけない対応を心がけている。職員同志で注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを重視しながら、毎日の余暇活動等で、その時にやりたい事をする場面をつくったり、運営推進会議で希望を聴きだすようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その時の体調や希望に配慮し、利用者のペースに合わせてケアをしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせておこなう。化粧をしたり、訪問理美容店が来園した際は、希望に応じて利用している。又、家族等となじみの美容室に行く利用者もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、近隣のスーパーに買い物に行っている。献立のメニュー決めの際には、希望を聴いて、反映している。出来る利用者には、準備や後片づけを行って頂く。食事が楽しみの場になる様支援している。	全職員が、3日毎に献立を作成し、手作りの食事を用意している。検食者1名が利用者と一緒に食べている。3日毎に利用者と一緒に食材を買いに出かけ、菜園の作物も食卓にあがる。飲み物は、コーヒー・紅茶・ココア等提供し、選択できる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好に考慮しながら提供を行い、水分や食事の摂取量を記録に残し、水分不足や食事量の低下時には、医師に相談する等、早めの対応をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・見守り・介助を行っている。就寝前は、義歯の殺菌洗浄を行い、口腔内の清潔が保てる様支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、排泄のリズムやサインをつかみ、トイレで排泄出来る様支援している。	排泄チェック表による時間での声掛けや、利用者の素振り等のサインを掴み、トイレでの排泄ができるように支援している。誘導時には、さり気ない声掛を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にむけて、日頃から、乳製品や繊維質の多い食材を、献立に取り入れている。又、体操・家事活動・散歩・日常生活動作により、適度な運動をする機会をつくり、自然な排便を行える様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の他に、希望者や排泄時に失敗し汚れてしまった方には、入浴して頂いている。入浴剤や菖蒲・ゆず・みかん湯にして入浴を楽しめる様にしている。	毎日入浴できる体制になっている。基本は1日3名であるが、全員に声を掛け、希望に応じて支援している。多種の入浴剤や季節の柚子湯などを用意し、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、日中は、運動等の活動を促し、夜間に安眠出来る様配慮している。夜間、眠れない方には、無理に居室誘導するのではなく、お茶を勧めたり、話を聴く等してから入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容説明で内容を把握し、服薬時は、名前を確認しながら、本人に手渡したり、口に入れたりし、誤薬が無い様にしている。又、きちんと飲めているか、飲み込むまで注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・ゴミ捨て・食事の下膳・おやつ作り・畑作業・洗濯物たたみ等、利用者の力が発揮出来るような場面をつくる。買い物・歌を歌う・外出する等楽しみ事が見つかれば、気晴らし出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望に応じて、散歩や買い物、外食等の支援を行っている。慰問の見物等の支援も行う。家族等に協力して頂き、馴染みの場所への外出が出来る様支援している。	散歩や日向ぼっこ、犬の餌やり等で外気に触れる機会を作っている。季節の花見・りんご狩り・外食・ドライブ等に出掛けている。日常的に職員と食材の買い物にスーパーに出掛け気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、個人の現金所持は無いが、個人の買い物時は、職員付き添いのもと、お金を手渡し支払いをして頂いている。利用者より現金所持の希望がある場合には、家族等に伝え、少額のみ所持して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応や年賀状等、今までの繋がりを大切に出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、正月飾り・雛様・七夕・クリスマスオーナメント等の行事にあった飾りつけを行い、家庭的な雰囲気作りをしている。	共用空間から、畑と庭が見渡せる。季節の作物・花・果樹が眺められ、収穫出来る。テーブルが2ヶ所、ソファも配置され、掃き出し窓から庭のベランダに出られ、開放的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ダイニングテーブルやソファを配置してある。庭には、ベンチを置き、気のあった方通しで、思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた馴染みの家具や、自分好みの物・家族の写真等を持ち込んで頂き、安心して、心地よく生活出来る様、家族等と協力しながら工夫している。	居室には、ベッド・洗面台・トイレ・押し入れ整理棚が備え付けられ、タンス・机・椅子・テレビやお孫さんが描いた油絵・仏壇・位牌・家族の写真等が持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来る事・わかることを日々の生活の中で見極める。必要に応じて、危険なものは、配置替えや見えない所へ移動して安全に努めている。		